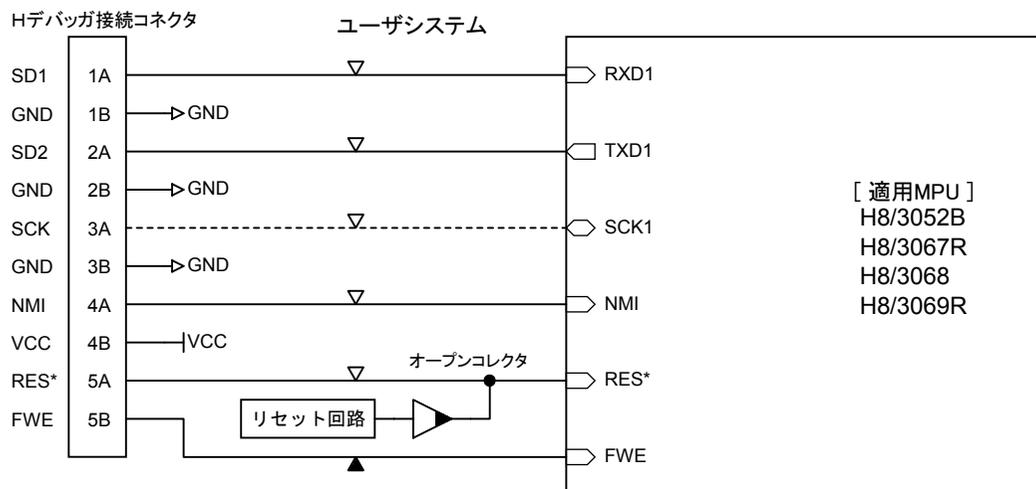


【接続例5】 H8/3052B,3067R,3068,3069Rの場合 (H8/300Hシリーズ)



- ▽印はプルアップ抵抗です、▲はプルダウン抵抗です。抵抗値は4.7K~22Kの範囲を推奨します。
- リセット回路の遅延時間は、200mSEC以下になるハードを設計して下さい。
- CPU動作モード(ブート・実動作)設定回路は、ユーザ(ターゲット)側で用意して下さい。
- CPU設定でターゲットI/Fを調歩同期/クロック同期の選択ができます。
調歩同期側に選択した場合は、SCK1を開放して下さい。